

# FCP国際標準に関する勉強会 グループディスカッションまとめ

## 論点 1

G A P の取組はなぜ必要か

## 論点 2

消費者及び事業者がG A P の観点  
から生産者に求めることは何か

# グループディスカッション 各班からの意見

A班	GAPの取組はなぜ必要か	<p>生産者のやるべき義務である(食品安全)</p> <p>自分のやっていることを購買先に説明しやすくなる。(見える化)</p> <p>農産物のリコール(残留農薬等) 事業の抑制のため</p> <p>残農リスクの低減 異物混入の低減</p> <p>環境・土壌など長期間に渡るリスク要素もありその抑制のため必要</p> <p>安全な作物を生産できる環境作り</p> <p>安全な農産品を出荷する(継続的に)</p> <p>安全衛生に結びつければ、生産性にブレがなくなる</p> <p>GAPを利用して、生産者の意識を統一する</p> <p>生産者をとりまとめて組織化⇒レベルアップツール</p> <p>生産者の世代交代時でのノウハウの伝承</p> <p>生産者間のバラツキを標準化する必要性</p> <p>管理基準の高いレベルでの標準化を図る</p> <p>必要な管理項目の漏れがなくなる⇒安全性が高まる</p>
	消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か	<p>トレーサビリティシステム構築のために最上流の食品安全システム運用が重要な要素であること</p> <p>生産工程の見える化⇒安全性保証</p> <p>安全性(可能な限り残留農薬が低減されている)</p> <p>原料そのものの安全性が求められている(加工工程内では除去できない)</p> <p>自然にたよる農業から計画的な農業⇒安定した農産品(国内品)の確保</p> <p>安全についての意識が高い生産者、それを第3者が確認しているところから購買したい</p> <p>継続的に安全な生産物を提供していただき</p>
B班	GAPの取組はなぜ必要か	<p>フードチェーンの入口として下流までの安全に関わるため</p> <p>安全性確保のために必要な事をもれなく管理することができるから(やらないともれが発生する)</p> <p>外部に対して安全の取組を第三者的に証明できるから</p> <p>GAPの規格を認証取得することに意義があるのではなく、取り組んだ結果として安全な食品を生産できることにつながるから</p> <p>生産量の大小に関係なく農業を産業化させるため</p> <p>安全性の確保及び食品生産への意識改善</p>
	消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か	<p>安全にとりくむ姿勢(とりくみの中で向上が生まれる)</p> <p>前提条件プログラムである以上、最低限取り組むべきこと</p> <p>食品安全への意識改革</p> <p>安全な食品としての農産物を生産していること 客観的に証明して欲しい</p> <p>本質的な取組み(ISO等規格取得のための作業ではない)</p> <p>作物ごとのリスク分析</p> <p>安全な良い商品を適正な方法で作ること</p>

# グループディスカッション 各班からの意見

C班

消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か

- 消費者⇒生産者 食材が安心して食べられることを記録により証明できる
- 消費者⇒生産者 ゼロリスクに極力近づいた農産物作り 放射能・有害な化学物質・農薬
- 消費者は日本産を選ぶ。輸入品が怖い。農産物が食品の材料として使われる場合と直接口にする場合が違う(加熱がない)
- 日本の農産物の60%が輸入しているという現実にはたなければならない。
- 外国競合品と比較しやすくなる⇒共通項目での比較
- 事業者⇒生産者 トレーサビリティーの確保、安心な規格の統一、様々なタイプの農家で使用できる食品安全
- 事業者⇒生産者 食品安全管理に対する意識の統一
- 消費者⇒生産者 生産者の顔が見える 記録の内容から生産者のスタンスがみえる
- 事業者⇒生産者 何か事故・苦情がおきたときに速やかに対応できるシステム
- 農業者がGAPを勉強することにより農業者自身のレベルアップ(世界に通じる商品の開発)
- 差別化された商品を作る(安心・安全面)
- スピーディーな取引の開始
- 作られた情報がオープンになる
- 農薬の用法ミス(勘違い)思い込み防止
- 農薬の品目・使用量・時期が確認しやすい⇒安心の監督
- 農薬etc使用基準の見える化(安全基準)
- 取扱製品の安全上のガイドライン
- より安全な製品の提供
- 後継者の確保⇒一部の農業高校等では授業にある
- 技術伝承⇒土地にあった農法の伝承⇒生産量の確保

D班

GAPの取組はなぜ必要か

- 作業リスクの見える化
- 生産工程の見える化
- 作業知識の確認
- 一定レベルの安全性を確保できる(バラツキがなくなる)
- 事故が発生した場合の対応が均一(安全向上)
- 輸出促進のため

消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か

- 一定レベルの安全性を求めている
- 事業者が要求することにより、GAPの取組みの必要性が高まる
- GAPは基本ベースであり、さらに品質の向上

# グループディスカッション 各班からの意見

E班	GAPの取組はなぜ必要か	買い手がGAPに対し高値取引、消費者もたくさん買うのであれば必要
		経済的メリット・見た目のメリット
		体を守るため・労働安全
		買い手がGAP以外を拒否すれば必要
		ブランド化
		取り組み内容により必要か不要か
		事業規模・売るターゲットによる
	国内生産の法制・検査が厳しくなれば必要	
	消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か	リスク分析・その気づきがある
		何を根拠に安全と言えるか
消費者は安全なお茶を求めている		
リスク分析は企業差別化の基本		
F班	GAPの取組はなぜ必要か	理論的にすることにより合理化が進むことによってコストダウンしている
		農林水産物・食品は生活者がよりよく生きるための基本
		顧客要求事項に応えるフードチェーンの供給体制の基本
		食品安全はフードチェーンの基本のため
		重篤な健康危害をもたらすリスクを低減させるため
		取引先に安全性の説明をするために重要なツールになるため(客観的証拠となる)
		農産物・畜産物の安全管理＝目に見えるマスコミなどの関心が非常に高い
		被害拡大の防止 リスク想定⇒トレース
		様々なアレルギーに対する意識が高い
		作業環境のリスクを把握できる
	管理という意識が高まる	
	取り組みにより農薬使用など安全であることを記録して示すことができる	
	農家は「管理する」という意識がない⇒意識して管理できる	
	生産者にとって当たり前のこと	
	フードチェーンの最初の段階であり、安全を確保することは重要。工程管理でもって安全を担保できる	
	消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か	「個人で完結」どのように作ったかが見えるようにするため
農薬の管理・基準を守る⇒使用を減らす		
「生き物の管理」次工程に安全な商品を提供する		
「食事」・「食材」の品質安全を担保する「信頼」		
生産工程における危害の「未然防止」体制の見える化		
安全性が高まるかは疑問 安全なのかを確認する方法が確保できる		

# グループディスカッション 各班からの意見

G  
班

GAPの取組はなぜ必要か

原料仕入れ商品の管理(食品安全)を向上させるため  
 日本は小規模農家が多く、記録が明確でないことが多い。これを明確にする上でGAPは必要  
 家族労働だけの農家は取り組むことに抵抗感が強くある  
 雇用を入れている農家では従業員管理として必要  
 1つの農産物ブランドを複数の農家が生産しており、その品質管理体制を整えるために必要  
 GAPには労働安全の向上の目的もあり、年間400人が農作業中に死んでおりGAP導入は有効  
 EUの場所は直接支払制度の条件にもなっており不可欠  
 食品衛生法を遵守するための体系だった管理基準は今まで農業分野にはなく有効な取り組みである  
 食品安全・労働安全・環境安全など安全管理の向上  
 事故発生時の被害の最小化  
 説明力のアップ  
 円滑な農産物取引を促進する環境を作るため  
 消費者は何でも良い 安心の印  
 取引拡大・売り上げ向上がなければ続かない  
 JAなど団体・地域単位での管理体制

消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か

消費者として生産者の顔がわかり安心して食べることができる  
 農産物の安全性の保証として、GAPの管理をしていることがあるとよい  
 トレース、履歴の明確化  
 エビデンス管理(引き出し可能な)  
 原料・サプライヤーとしての安全性品質の向上  
 信頼できる農家か確認したい  
 危害分析を行う HACCPの考え方  
 農協と農家は力関係は農家が上なので農協かチェックすることは困難  
 自信があるなら情報提供を  
 授業員を巻き込んだリスク管理

# グループディスカッション 各班からの意見

H班	GAPの取組はなぜ必要か	<p>消費者との認識のGAP</p> <p>安全性の向上。異物混入 残留農薬 労働安全 トレーサビリティ</p> <p>必要とは思いがコストがかかる(高く買って欲しいな)</p> <p>一部だがやってることの見える化</p> <p>品質向上のベースになるだろう</p> <p>販路が拡大することを期待</p> <p>生産者もリスクが見える</p> <p>GAPはあくまでツール</p> <p>夫婦2人でやるような農家でも取り組めるようにすること</p> <p>マーケットニーズがわかる</p>
	消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か	<p>やってることの見える化</p> <p>消費者—おいしいもの 事業者—品質・安全</p> <p>安全に対する意識の向上</p> <p>透明性 生産者が何をしているのか見えるようにしたい</p> <p>消費者の正しい理解が必要</p> <p>消費者の認知度を上げることは重要だが、他を排除するような誤解を生まないように注意が必要</p>

I班	GAPの取組はなぜ必要か	<p>必要性が生産者に伝わっていない 認知されていない</p> <p>初心者には有用な手法だが、昔から問題なく取り組んでいる農家には必要性があるのか</p> <p>安全よりも見た目が重要になっている情勢</p> <p>日本の農業の問題点、生産性が求められている⇒環境負荷多く、無理しているところもある</p> <p>トレース・農薬の使用基準遵守など見える化ができる</p> <p>食品安全よりは労災(事故)と環境保全の方が力点が置かれるべきか</p> <p>労働災害を防止する</p> <p>自然が相手だから、めったに事故は起きない</p> <p>リスクは変化している 食べ方の変化 現在生食が多く、微生物や寄生虫リスクあり。マインドをかえる必要がある</p> <p>自分の生産している農産物のリスクまで鑑みて「気にする必要なし」と判断しているか</p> <p>おいしくなる、生産性が上がるにつながるのか</p> <p>SQFの発想(儲かる)</p> <p>生産者の意識改革が必要</p> <p>生産者を消費サイドに近づける(意識させる)</p> <p>残留農薬違反商業的に安全ではない</p>
----	--------------	---

# 論点まとめ

## GAPの取組はなぜ必要か

- ・生産者のやるべき義務である(食品安全)
- ・自分のやっていることを購買先に説明しやすくなる。(見える化)
- ・残農リスクの低減 異物混入の低減
- ・環境・土壌など長期間に渡るリスク要素もありその抑制のため必要
- ・安全な作物を生産できる環境作り
- ・安全な農産品を出荷する(継続的に)
- ・GAPを利用して、生産者の意識を統一する
- ・生産者をとりまとめて組織化⇒レベルアップツール
- ・生産者の世代交代時でのノウハウの伝承
- ・生産者間のバラツキを標準化する必要性
- ・管理基準の高いレベルでの標準化を図る
- ・必要な管理項目の漏れがなくなる⇒安全性が高まる
- ・フードチェーンの入口として下流までの安全に関わるため
- ・安全性確保のために必要な事をもれなく管理することができるから(やらないともれが発生する)
- ・外部に対して安全の取組を第三者的に証明できるから
- ・生産量の大小に関係なく農業を産業化させるため
- ・安全性の確保及び食品生産への意識改善
- ・一定レベルの安全性を確保できる(バラツキがなくなる)
- ・事故が発生した場合の対応が均一(安全向上)
- ・輸出促進のため
- ・買い手がGAPに対し高値取引、消費者もたくさん買うのであれば必要
- ・経済的メリット・見た目のメリット
- ・体を守るため・労働安全
- ・買い手がGAP以外を拒否すれば必要
- ・国内生産の法制・検査が厳しくなれば必要
- ・理論的にすることにより合理化が進むことによってコストダウンしている
- ・重篤な健康危害をもたらすリスクを低減させるため
- ・取引先に安全性の説明をするために重要なツールになるため(客観的証拠となる)
- ・農産物・畜産物の安全管理＝目に見えるマスコミなどの関心が非常に高い
- ・被害拡大の防止 リスク想定⇒トレース
- ・作業環境のリスクを把握できる
- ・管理という意識が高まる
- ・取り組みにより農薬使用など安全であることを記録して示すことができる
- ・農家は「管理する」という意識がない⇒意識して管理できる



# 論点まとめ

## GAPの取組はなぜ必要か

- ・フードチェーンの最初の段階であり、安全を確保することは重要。工程管理でもって安全を担保できる
- ・原料仕入れ商品の管理(食品安全)を向上させるため
- ・日本は小規模農家が多く、記録が明確でないことが多い。これを明確にする上でGAPは必要
- ・雇用を入れている農家では従業員管理として必要
- ・1つの農産物ブランドを複数の農家が生産しており、その品質管理体制を整えるために必要
- ・GAPには労働安全の向上の目的もあり、年間400人が農作業中に死んでおりGAP導入は有効
- ・EUの場所は直接支払制度の条件にもなっており不可欠
- ・食品衛生法を遵守するための体系だった管理基準は今まで農業分野にはなく有効な取組みである
- ・食品安全・労働安全・環境安全など安全管理の向上
- ・事故発生時の被害の最小化
- ・円滑な農産物取引を促進する環境を作るため
- ・消費者は何でも良い 安心の印
- ・取引拡大・売り上げ向上がなければ続かない
- ・安全性の向上。異物混入 残留農薬 労働安全 トレーサビリティ
- ・一部だがやっつてることの見せる化
- ・販路が拡大することを期待
- ・生産者もリスクが見える
- ・夫婦2人でやるような農家でも取り組めるようにすること
- ・初心者には有用な手法だが、昔から問題なく取り組んでいる農家には必要性があるのか
- ・安全よりも見た目が重要になっている情勢
- ・トレース・農薬の使用基準遵守など見える化ができる
- ・食品安全よりは労災(事故)と環境保全の方が力点が置かれるべきか
- ・労働災害を防止する
- ・生産者を消費サイドに近づける(意識させる)

# 論点まとめ

## 消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か

- ・生産工程の見える化⇒安全性保証
- ・安全性(可能な限り残留農薬が低減されている)
- ・原料そのものの安全性が求められている(加工工程内では除去できない)
- ・自然にたよる農業から計画的な農業⇒安定した農産品(国内品)の確保
- ・安全についての意識が高い生産者、それを第3者が確認しているところから購買したい
- ・安全にとりくむ姿勢(とりくみの中で向上が生まれる)
- ・安全な食品としての農産物を生産していること 客観的に証明して欲しい
- ・作物ごとのリスク分析
- ・安全な良い商品を適正な方法で作ること
- ・消費者⇒生産者 食材が安心して食べられることを記録により証明できる
- ・消費者⇒生産者 ゼロリスクに極力近づいた農産物作り 放射能・有害な化学物質・農薬
- ・事業者⇒生産者 トレーサビリティーの確保、安心な規格の統一、様々なタイプの農家で使用できる食品安全
- ・事業者⇒生産者 食品安全管理に対する意識の統一
- ・消費者⇒生産者 生産者の顔が見える 記録の内容から生産者のスタンスがみえる
- ・事業者⇒生産者 何か事故・苦情がおきたときに速やかに対応できるシステム
- ・農業者がGAPを勉強することにより農業者のレベルアップ(世界に通る商品の開発)
- ・差別化された商品を作る(安心・安全面)
- ・作られた情報がオープンになる
- ・農薬の品目・使用量・時期が確認しやすい⇒安心の監督
- ・取扱製品の安全上のガイドライン
- ・より安全な製品の提供
- ・後継者の確保⇒一部の農業高校等では授業にある
- ・技術伝承⇒土地にあった農法の伝承⇒生産量の確保
- ・一定レベルの安全性を求めている
- ・事業者が要求することにより、GAPの取組みの必要性が高まる
- ・「個人で完結」どのように作ったかが見えるようにするため
- ・農薬の管理・基準を守る⇒使用を減らす
- ・「生き物の管理」次工程に安全な商品を提供する
- ・生産工程における危害の「未然防止」体制の見える化
- ・安全性が高まるかは疑問 安全なのかを確認する方法が確保できる
- ・消費者として生産者の顔がわかり安心して食べることができる
- ・農産物の安全性の保証として、GAPの管理をしていることがあるとよい
- ・トレース、履歴の明確化
- ・エビデンス管理(引き出し可能な)
- ・信頼できる農家か確認したい

# 第3回勉強会 要点整理

## GAPの取組はなぜ必要か

- ・安全な農作物を生産できる環境作りのため必要。さらにフードチェーンの入口として下流までの安全に関わるため。
- ・第3者へ安全の取組を証明することができ、円滑な農産物取引を促進する環境を作るため。
- ・生産者の管理における標準化ができるため。生産者のレベルアップツールとして活用できる。

## 消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か。

- ・消費者の観点からは農作物の安全性を確認する方法として、GAPの管理が求められる。
- ・事業者の観点からは食品安全管理に対する意識の統一および円滑な取引につながるため。さらに事件事故が発生したとき円滑な対応ができるトレーサビリティの確保が求められる。